**瀞峡** (看板)

奈良、三重、和歌山の3県の県境にまたがるこの北山川流域は、全長31kmの瀞峡の一部です。高さ50mの断崖絶壁は、約7千万年前に海から隆起した堆積岩の層から形成されました。その後、岩盤は溶岩に熱されて硬化し、浸食されにくくなりました。非常に長い年月にわたって、この岩盤の硬さによって川の流れは両岸を広げるのではなく川底を深く削り、徐々に険しい峡谷が削り出されました。

*輸送から観光へ*

北山川は600年以上もの間、この険しい山々を通る重要な交通水路としての役割を果たしました；特に、鬱蒼と茂った森から伐採したたくさんの木材を、筏で川を下って運ぶ筏師（log drivers）には不可欠でした。(筏師たちが材木を運んだ後、家まで歩いて帰るのに使った「筏師の道」の一部は、現在ハイキングコースとして整備されています）。つい最近まで、この地域は道路もなく、孤立していて、川が唯一の交通経路でした。しかし、19世紀後半にこの峡谷の切り立った崖や奇岩の数々、エメラルド色の水の評判が広まると、観光客が訪れるようになり、瀞峡は1936年に吉野熊野国立公園の一部に指定されました。現在では、伝統的な筏からモーターボートまで、さまざまな河川交通手段で峡谷の往来を楽しむことができます。1965年には道路が完成し、アクセスがさらに容易になりました。

*川下り*

この下流域のボートツアーは、階段を下った河岸で手配できます。流れの緩やかなこの水辺は、スタンド・アップ・パドリングやカヤック、そしてちょっとした水遊びにもぴったりです。